第64次観測隊との交代

作業の様子（国立極地研究所 提供）

消火訓練（国立極地研究所 提供）

ブリザード後の晴天

地球環境の未来を見つめる一大プロジェクト

南極観測事業に人と技術で貢献

●三機工業と南極観測事業の関わり

南極域での環境変動と地球システムの解明を目的に、国家事業として実施されている南極地域観測事業。三機工業が初めて南極と接点を持ったのは昭和基地が建設された1957年、第2次観測隊向けに資材搬入用のローラコンベヤ30台を納入したことがきっかけでした。その後、南極の環境と生態系の保護を目的とした「南極条約議定書」が採択された1991年に、国立極地研究所の極地観測職員として人員を送り出して以降、継続的に技術者を派遣してきました。2022年度まで南極に派遣した人数は17名を数えます。

第63次観測隊の一員として、2021年12月から2023年1月にかけて約1年間、南極・昭和基地に滞在し、環境保全担当として日々の生活に伴う排水処理設備の維持管理やごみや廃棄物の処理・管理といった業務に従事しました。上司からの勧めがきっかけでしたが、二度とはないチャンスだと思って参加を決意しました。

南極の厳しい自然環境における生活は非常にシンプルで、根底にあるのは生き残るということ。各種設備の維持・管理は、いわば基地の仲間の命を守る仕事であり、責任感と使命感を感じました。その中で、日々の仕事で培った自らの技術を活かすことができ、あらためて自分の仕事の価値というものを見直すことができました。現地では三機工業、国立極地研究所を含めた3者によるWeb会議を定期的に実施、緊急時や設備にトラブルがあった際には、三機工業の観測隊OB社員がサポートしてくれたため、大変心強かったです。

現在は、第64次観測隊として三機工業から2名が派遣され、そのうち一人が私が担当していた業務を引き継いでいます。昭和基地の越冬交代式で後任の2人に引き継いだときは、無事に重責を果たせたことを実感し、ホッとしました。

観測隊員として参加し、南極の観測事業の重要性をあらためて知ることができました。60年以上続く南極観測事業の歴史に関われたことは非常に光栄だと思っています。その意義や重要性、自らの経験を後輩たちにも伝えつつ、次の自らの成長にもつなげていきたいです。

三機化工建設株式会社
プロポーザル室 ソリューショングループ
金重 真実